

さして當日の獲物を料理したる兎の五目飯を食したるに、腹をメ...

内郷村報の 六大使命

- 一、政務政議を組織して、村力充實主義を標榜す。
二、村内外各機關の活動状況を報導し、併せて其進歩を計り、進取和進努力の實現を期す。
三、本村社会事業の徹底を期す。

内郷村報

天一人 法順ナ 二 從人 順ナ

寝ながらに

空費する一億圓

「他山の石」紹介

大内民恵

最近磐城炭礦の、前川専務取締役は、先年長崎三菱造船所で、獨逸の汽船を修理した時、其船員の日常の言動を集めて、マネージメント社より出版したる「他山の石」を、膽寫に代へて印刷したる、四六版三十四頁の小冊子二千部を、山元の役員及重立たる従業員に寄贈せられたので、記者も直ちに之を閲讀したるに、啓發せらるる處、眞に多大であつた。専務は先づ其巻頭に...

きであるが、近來諸物價は著しく騰貴し、鐵道の必要材料である鐵材木材其他何人も益々暴騰の傾向であるから、銘々無駄を省き一本の釘一枚の板片も粗末にせぬ様眞剣に努力することが肝要と思ふ。之の無駄を省くこと云ふことは只に會社丈の問題でなく各家庭に於ても大に注意を要する次第で、それが國家の繁榮を來す所以である。先年長崎三菱造船所で獨逸の汽船を修理した時、其獨逸船員の言動を集めてマネージメント社より「他山の石」と題し獨逸人の徹底したる節約振りを小冊子として出版せられたが、之を見るに獨逸人が何事にも徹底的に無駄を省いて母國の復興のために血のにじむ様な奮闘を續けて居る有様が、ありく、と現はれて居ります。「戦後五十年は起つ能く一」まで言はれた獨逸がめきめき復興して、今や英佛を抑へる機に復つたのも、かゝる國民があればこそ思はれます。我國民も大に獨逸人を手本として無駄を省き、勤勉努力國家の繁榮を期すること、目下の急務であると思ふが、諸君も獨逸人の勤勉努力無駄排除を見習ひ、一日も早く吾社の面目を一新せられんことを切望して已まざる次第であります。



前川専務取締役 益川氏

- 一、獨逸の奮闘。
二、バナ、の皮は肥料。
三、一遍讀んだ書物は本國へ。
四、産業戒律。
五、獨逸船員の氣風。
六、瑞西及獨逸人の氣風。
七、獨逸軍艦「エムデン」號の乗員。
八、獨逸人の日常生活。
九、戦後獨逸國民の生活。
十、戰後其更生に慘憺たる苦心の概況。

と、切々の至情を披瀝した序文を掲げ、六千の職員并に従業員の責任のある處を示し、其進歩すべき覺悟を明かにし、延いては一般國民の急務を説き、思はず吾人をして、襟を正さしむるの感あらしめた。而して其内容は、一、獨逸の奮闘。二、バナ、の皮は肥料。三、一遍讀んだ書物は本國へ。四、産業戒律。五、獨逸船員の氣風。六、瑞西及獨逸人の氣風。七、獨逸軍艦「エムデン」號の乗員。八、獨逸人の日常生活。九、戦後獨逸國民の生活。十、戰後其更生に慘憺たる苦心の概況。

七時間式を消燈するとすれば、六十七圓二十錢となり、一ヶ年三百六十五日には、何と驚く勿れ、二萬四千五百二十八圓の巨額に達する節約となるのである。之に驚いた記者は、電燈を使用する、全國一萬一千六百の市町村に於ける(僻邑島嶼等電燈を使用せざる町村は二百九十)燈火電力量より計算して、七時間消燈によつて、節約し得られる計算方を、重ねて同技手にお願ひして得たる金額は、實に二億〇五百九十三萬三千圓(昭和八年度の統計より計算)の數字で、再び驚嘆させられたのである。若し此節約量を、我等の生活の萬富の増殖は勿論、世界の市場に、更に一大飛躍し得らるゝや必然である。是はたゞ「他山の石」中一項に就いての問題であるが、一事が萬事、此方針によつて、我等の日常生活を律するに於ては、其得る處や、蓋し想像し得ざる程度の大節約を見らるゝ事を信ずるのである。こゝに於て記者は、此冊子の精神は、ひとり我輩炭のみにならず、全國に向つて之が實現普及を熱望して已まない次第である。準非常時と稱せらるる帝國の現状に於て、三十億の豫算、それ何かあらんや。

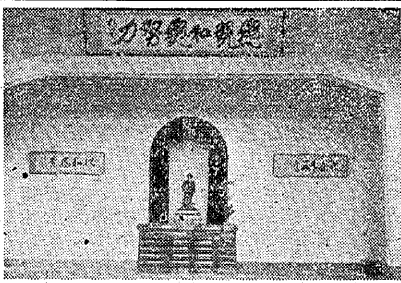
- 四、村内の善事興行を奨励し、且之を奨励す。
五、本村に本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
六、餘餘力を以て、國民指導に當る。

本報發行は内郷一家の事業にして、其の社費は子孫に對する遺言を承継するものなり。

山莊の沿革?に就いて概要申上げて來ました。歸りに災害馬補助金七圓九十錢を頂戴して來ました。十一月二十八日、二、郵...

# 磐炭水災の恢復と 淺野社長來山

舊臘本紙既報の通り磐炭炭礦に於ては、住吉坑第二本線の水災に次ぎ、綴本坑の水災あり、所長以下幹部諸氏及従業員に至る迄懸命の努力に依り、其の損害を最少限度に止め得た事は眞に仕合せであつたが、なほも淺野社長は深く憂慮せられ山口秘書同伴、一月二十二日の夜急行にて來山せられ翌日二十三日には、礦業所に主任以上の幹部を召集して、親しく水災當時に就いて、詳細に聴取せられ、將來は一層の注意を以て事に當り、かゝる災害を再び惹起せざる事尚之れしきの事に携ます屈せず、全従業員が一致協力努力精進すべき



新に淺野社長と總和力



淺野社長 一郎

やう、激勵の言葉をのこして即日歸京せられた。因に住吉第二本線は、水勢大いに微弱となりしにより、舊臘十一月二十八日にダムを

を以て、二月六日方面委員及助成會支部長會を開き、其規定を別項記載の如く協議決定して之を使用する事になつた。因に總工費三百六十圓を費やしたるが、之が工事を請負ひたる佐藤三平氏は、好意を以て多大の犠牲を拂ひたる結果、其工費に比して、頗る立派に出

内郷村養老院規程  
第一條 救護法ニ依ル獨身者ニシテ老若若クハ病弱者ヲ收容保護スルモノトス  
第二條 起居炊事ニ耐フル者ハ隣保互助ノ精神ニ基キ協力生活ヲ營スルヲ指導監督スルモノトス  
第三條 院ニ收容スベキモノトシテハ助成會長ト協議シテ第一號用紙ニ記載ナシテ當番巡視員ト共ニ收容スルモノトス  
第四條 方面委員ハ一人一ヶ月交替責任ヲ負フテ巡視保護ノ任ニ當リモノトス但シ一週間一諾以上巡視シ其都度所定ノ日誌ニ記載スルモノトス  
第五條 取上及設備ニ關シ經費ヲ要スル時ハ助成會長ト協議シテ當番委員ニ於テ處理スルモノトス  
第六條 收容者ノ爲メ修養慰安等ノ方法ヲ講スルモノトス 以上

排水に着手し、六月には全坑を挽回、採炭開始の豫定つき綴東斜坑も近く排水に着手、且つ住吉第一坑(舊高坂坑)は目下相當採炭を見つゝあるを以て、全區域の排水採炭は近き將來にして、之等全部恢復の曉には、四月末と豫想せらるゝ第二磐炭炭礦長倉本坑の着炭と相待つて、一大盛觀を齎すものと期待せられて居る。

養老院落成  
本紙既報助成會にて建設中の養老院は、竣工したる

方面事業取扱數  
(十一月分)  
生活扶助、法令によるもの 二四。 兒童保護、法令によるもの 三七。 相談指導、二五。 戶籍整理、二。 職業其他の紹介、三六。 教化、一九。 其他、五。 計一四八。 第一種、世帯三一、人口一三〇。 第二種、世帯

方面委員任命  
第九區内町方面受持草野三千雄氏辭任缺員中の處、五日付を以て福羽賢三氏其後任として任命せられた。

小學校新設  
本村に於ては、來る新學期より第一校に一學級、第二校に二學級の増設を行ふ豫定であるが、尙收容に不足を告ぐる形勢なるを以て、

長谷川局長昇叙  
内郷郵便局長長谷川憲次郎氏は、此度正七位に昇叙せられた。眞に慶賀に堪へぬ

加藤氏の特志  
多年村治に功勞ありし加藤丈夫氏は病中の處攝養の効空しく逝去したるを以て、嗣子政英氏は其の遺志に基き金百圓を第一小學校へ金五十圓を本村助成會へ寄附せられた。

日本評論社 發行所 東京三丁目 内郷村報社 取次所

佐藤三平氏寄進  
奉安殿竣工

教育制度改革概論  
(四六版二二頁 定價五十錢 郵税六錢)

我國教育學界の權威  
前京大總長小西重直博士

日本評論社  
發行所 東京三丁目

内郷村報社  
取次所

住吉第二本線は、水勢大いに微弱となりしにより、舊臘十一月二十八日にダムを

本紙既報助成會にて建設中の養老院は、竣工したる

職業其他の紹介、三六、教化、一九、其他、五、計一四八、第一種、世帯三一、人口一三〇、第二種、世帯

より第一校に一學級、第二校に二學級の増設を行ふ豫定であるが、尙收容に不足を告ぐる形勢なるを以て、

日本評論社 東京三丁目 内郷村報社

矢野恒太 大内民憲著 教育制度改革概論

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理を實踐せし、歴史を實驗せし、新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同攻撃に違あらず。味任り不慮感敷ニ打テ申候云々。

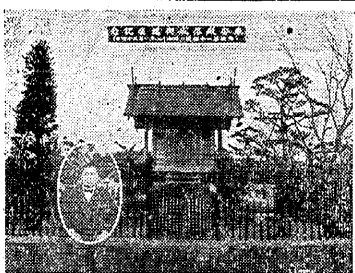
我が教育學界の權威 前京大總長小西重直博士 書を寄せて曰く、多年ノ御體験ヲ實地ノ御試驗ニ基テ、眞摯愛國ノ大精神ヲ拜

は無駄の多い事である、戦後五十年に立ち上りたが、云はれた彼の獨逸が、見事に復興して今日をなせるは、國民のこの無駄排除の精神に預かる、處非常に多い。

日本評論社 東京三丁目 内郷村報社

佐藤三平氏寄進 奉安殿竣工 御眞影奉遷式

佐藤三平氏の寄進にかゝる(工費一千三百圓)第一小學校の奉安殿の御眞影奉遷式は、村内各名譽職並に大字小島の全員参列の下に一月二十四日午前十時より



第一小學校奉安殿

來賓祝辭(諸橋縣學務部祝電、生田村議其他)一、感謝狀授與(別項参照)一、閉式。式後祝宴。の順序を以て、盛大嚴肅に舉行せられた。ここに改めて紹介する迄もなく、佐藤氏は温厚篤實、勤儉産を興したる立志傳中の人にして公共奉仕の念厚く、多年消防組頭として令名を馳せ、又選ばれて村議たる事もある

つた。隣保慈父の如くに氏を敬愛し、來るべき村議改選には、氏の固辭するにも關はらず、小島大字全体の有力家は、氏の再出馬を希望して居るとの事である。

長倉坑代表参拜 一月十四日第二警城炭礦長 感謝狀 壹棟 右本村内郷第一小學校へ寄贈セラル洵ニ感謝ノ至リニ堪ヘズ茲ニ村會ノ決議ニ基キ金杯壹個ヲ贈呈シテ謝意ヲ表ス

内郷信用購買組合は、一月二十三日家政女學校に於て第二回通常總會を開き、理事生田常弘氏議長となり理事山崎庫太郎氏説明の下に七議案を附議、之を協議決定した。因に沼田濱之助草野安吉の兩氏の理事補缺選任を見、尙濱田氏は理事長に選任せられたる由。而して事業の概況は左の通りである。

一、組合員及出資は新加入二十七名、脱退者十四名、現在百二十八名にして差引十三名増加し出資口數は差引百七十口増加したり、

倉坑長前川孝一氏は、職員代表太田直光、従業員代表佐藤秀、村田静夫の三氏を引率して成田山に参詣、坑内安泰、作業安全、全職員全従業員八百五十名の幸福を祈願し、其お守りをうけて歸坑、之を全員に配布した。(太田直光報)

長倉坑第二回東都訪問記 長倉坑 山下政次

第二警城炭礦長倉坑の例年恒例となつて居る帝都訪問團は、前川坑長に引率せられて、一月十六日午後五時十七分湯本發にて上京。九段軍人會館に宿泊、翌日未明四時半起床、二台の大型バスを驅つて先づ靖國神社に詣つき、明治神宮に参詣。一行四十余名心身共に森嚴の氣にうたれ、靜肅一語を發するものもなかつた。かくて寶物殿に到り、一年三百六十五日降つても照つても、曉余りを實行せらるるに、我社の前川代表取締役を迎ふ。時に五時半、白み行く神苑の一隅に立てる我等に對して、取締役殿には、温情のたゞよふ、講義なる態度を以て、この神苑にあつて諸君は、種々の雜念を忘却して、只、陛下の赤子を思ふ。日本の内外は諸君も御承知の通り

でありませう。私共は個々に與へられた使命を完全に守つてこそ、忠良なる赤子と云ふ事が出来るのである。 朝東新聞社 上野

内郷信用組合 近年好成绩を擧げつゝある

長倉坑第二回東都訪問記 長倉坑 山下政次

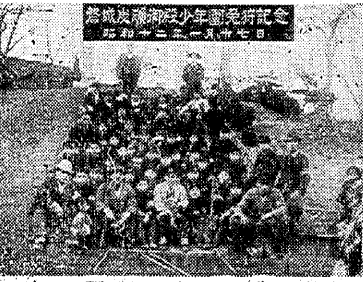
ありませう。警長も昨年不幸二回もあの災害に遭遇したのであります云々」と綴々國家社會社及個人の立場を説かれ、日本人の一番缺點

は無駄の多い事である、戦後五十年に立ち上りたが、云はれた彼の獨逸が、見事に復興して今日をなせるは、國民のこの無駄排除の精神に預かる、處非常に多い。 日本評論社 東京三丁目 内郷村報社

### 朔風を衝いて兎狩 (抄録)

住吉坑務係 御殿少年團長

少年時代九州の山野で、兎狩りをやつた楽しい思い出が、どうしてか忘れられず、一月十七日我團員を驅つて、それを試みる事となつた。當日は嚴寒には珍らしい絶好の狩日和。地方きつての獵の名手門脇真治氏を筆頭に同八名の應援下に、團員五十名が勢揃ひしたので、先づ團員に對して、兎狩に就いて嚴密なる訓辭を與へ、七時半好間原方面一帯を狩場として出發。そ



御殿少年團 兎狩 紀念

天眞爛漫、腹をさすつて食するもの、水を掛けて流し込者、バンドをゆるめたり、はつたりして腹を打つ者等々、眞に無邪氣な、楽しい賑やかな野開きであつた。之を傳へ聞いた親達も亦大に満足

### 開拓記

北海道十勝國上川郡 清水町 清水山莊

柿二箱拜受、鈴木長市同外平治、上田善一高根兵作の四氏からも、それ、一寸の休みに、寝る前に、皆何れもよく食べてニコニコです。以上の皆様に、よろしく御禮を申上げて下さい。

### 大内 (其)

一 郎

耶三英雄は朝から参り、信雄は正午から馬車をかけて行つたので、貨車積込分は、運送屋に任せられた。明日参上御出發の御都合をお開きして、お荷物馬車で驛までお送りしやう。一 郎と語つて居る處です。

拜啓 其後は御無沙汰いたしました。お父さんも御元氣にて何より存じます。淺野翁七年忌其他にて本當に御多忙の事であつた存じます。先日はお便り、昨日は村報に於て、相變らずお父さん御座いました。相變らずお父さんは大きなものだぞ存じます。お父さんの老人振りには兎に角、濱崎さん平野さん等々知人の方々中には随分年よられた向きもある様に思ひました。二十二日には荒木御一家の室園行を、午前八時四十分にて御送りして来ました。一抹の淋しさを感ぜました。同日母上には新得送御送りして、同日の禪寺参りをし來られました。其夜文字を留守居役に、一同清水座にて、オリシヒック、スペイン動亂、陛下特別大演習地方行幸等の映畫を見物に参りました。日中青年學長の小笠原先生を訪問上り、學校の件及信雄君入學の件をお話しし、夜學校が十一月より明年四月迄、午後七時より九時迄、月水金の五日間あり、訓練は毎月第一、第三日曜にあるそうです。之は一年を通じてです。教科書は四十五錢で、之れ一冊あれば十分間に合ふそうです。教科書と帳面一冊づつ買つてやり、昨夕より二人が登校いたしました。最初に課せられたのが國語で「聖駕を奉迎して」といふ綴方だつたそうです。九時半頃歸校致しました。之から段々寒くなり、ひじりかもし知れませんが、通學させる事になりました。

十一月二十四日 一 郎

れ、部署を定めて前進、先づ第一戦、第二戦に於て何れも大兎一匹つゝを倒し、全員狂喜して萬歳を高唱、第三戦に於ては、險阻にして範圍廣く、人員不足の爲追撃意の如くならず、遺憾ながら雄二羽兎一匹を逸したけれども、靈食最後の狩場に於て、三度大兎を獲し、全員意氣軒昂、落陽を背負ふて引上げ、山神社前で記念撮影をなし、御殿俱樂部に於て野開きとして當日の獲物を料理したる兎の五目飯を會食したるに、腹をメクさせる迄の食方競争が展開せられ、團員等の喜び云は入方なく

此頃は他から来た端書を、其度毎に二少年に讀ませますが、殆んど讀めないで、私が指導して教へて居ります。二人共大喜び、年内には大分やつした字も讀める様になると思ひます。十二月から、日曜は休みとせ、毎朝体操をやる事を復活しやうと語つて居ります。それに珠算もやりたいと云ふので、除算は例の私の兎算で教へる事に約束した處です。來年の三四月頃迄にはミツチリ教へ込みたいと存じて居ります。二少年も大に意氣込んで居ります。北海道の冬籠にはふさはしい事の數々です。夜は一郎が農民道(山崎延吉氏)と少年論語の講義、私には他から来た端書に就いて、行草体の讀み方書き方の教授等々、何れも大砲小銃まつた機關銃を持ち合せて居るので夜は眞に笑の連發です。

十六日には、町の小娘達の舞踊會が催されたので、女子をつれてそれを見物し、夜は荒木様方に泊めていた、最後の御厄介に相成り、いつも變り厚きおともてなしに預つて歸りました。次に一郎と私を除く他の三名は、足に霜やけが出来て困つて居るので、其事を聞いた五十嵐夫人が、茄子の莖に鹽を少々入れて煎じ、それで四五回も暖めることなるので、莖を頂いて来て試みて居りますが、大層よいやうです。

四、村内の善事興行を表彰し、且之を獎勵す。

十一月二十八日 一 郎

### 内郷村報の

### 六大使命

- 一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内外公私各機關の活動状況を報導し、併せて其發展を計り、進歩和進歩努力の實現を期す。
- 三、本村社會事業の徹底を期す。

- 四、村内の善事興行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村に本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、會費力を以て、國民善事に當る。

本報發行は内郷一家の事業にして、其の社務は子孫に對する遺言を継ぐものなり。

十一月二十八日 一 郎

# 内郷村報

天法人則 二從順ナ

と、切々の至情を披瀝した序文を掲げ、六千の職員并に従業員の責任のある處を示し、其準備すべき覺悟を

十、上の勤勉振り。

七時間丈を消燈するとすれば、六十七圓二十錢となり、何と驚く勿れ、二萬四千五百二十八圓の巨額に達する

行發日五十一月年 印刷所 平 活 版 所